

CASBEE-川崎2011 (v.1.2)

久末住宅10号棟

13089

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	3.5
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物資源の保全と創出	四季を通じて楽しめるよう樹木を植栽している 植栽により、良好な景観を形成している 中高木の植栽により日陰の形成に努めている 緑地を設け、地表面温度や地表面近傍の気温等の上昇を抑制している	2.6/4.3	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	隣棟間隔指標: Rw1.22である	0.7/0.8	4.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	3.6
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.3 外皮性能	住居部は、カーテン・庇により、グレアを制御している	4.5/7.1	3.2
3 3.1 3.1.3 屋光利用設備			
3.2 3.2.2 屋光制御			
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物資源の保全と創出	外構緑化を実施している 中高木の植栽により日陰の形成に努めている	1.4/2.3	3.0
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物の熱負荷抑制	品確法、等級4相当である	4.6/5.0	4.6
2 自然エネルギー利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	ノンフロン断熱材を採用している	2.9/4.6	3.1
2 非再生性資源の使用量削減			
3 フロン・ハロンの回避			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	隣棟間隔指標: Rw1.22である	0.7/0.8	4.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	2.8
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数	配管材は、給水管(硬質塩化ビニルライニング鋼管)・排水管(硬質塩化ビニル管)B種、給湯管(断熱被覆鋼管(M))D種を採用している	0.3/0.5	2.7
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	GL工法、LGSを採用している	2.3/3.9	2.9
2 非再生性資源の使用量削減			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	建物利用者のための駐車場・駐輪場を確保している	0.3/0.4	3.3
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	3.9
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物資源の保全と創出	外構緑化を実施している 中高木の植栽により日陰の形成に努めている	1.4/2.3	3.0
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物の熱負荷抑制	品確法、等級4相当である	4.6/5.0	4.6
2 自然エネルギー利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	隣棟間隔指標: Rw1.22である	0.7/0.8	4.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **3.5**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の再利用		0.8/1.4	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物の熱負荷抑制	品確法、等級4相当である 高効率の給湯設備を採用している	4.6/5.0	4.6
2 自然エネルギー利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。